

東濃社会教育だより

-CS・教・親・地域連携-



恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

学校運営協議会の様子 笠原小 (多治見)



平成30年4月から、多治見市立笠原小学校は、コミュニティ・スクール※1（以下CSと明記）としてスタートしました。多治見市では、市之倉小学校、北栄小学校、脇之島小学校に続いて4校目のCSとなります。平成29年3月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務となりました。地域と学校の協働をより効果的に進めるために、文部科学省や県としては、CSの立ち上げと同時に「地域学校協働活動※2」の推進を薦めています。

笠原小学校 10月の学校運営協議会の様子

【伊佐治校長から】

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果から
- ・学校や児童の様子

【細江教頭から】

- ・表彰を受けた児童の活躍 ・不審者情報などの安全面
- ・笠原校区幼保小中一貫教育講演会
「コミュニケーションマジック」の説明など

【多治見市教育委員会から】

- ・多治見市全体の小学校と笠原小学校の様子の比較
(アンケートの結果から)

【他の運営委員から】

- ・地域での子どもたちの様子の交流

【運営委員メンバー】13名

有識者（4名）
笠原校区区長会長
笠原中央公民館館長
PTA会長
市教委（2名）
校長、教頭、教務、生徒指導

【実施回数】

- ・年間10回 19:00~20:00
- ・年間数回は、行事や授業の参観を計画し、日中に実施

今回の運営協議会では、地域行事に対するお礼の言葉を児童からかけられたことや登下校での様子、学校からの説明に対してのご意見などが、活発に交流されました。教頭先生が「お礼を言った子は誰ですか？」と尋ねるとすぐに「〇〇さん」と委員さんが名前を答えられました。これは地域の方が、一人一人の子どもの成長を、いつも近くで見守っているという証だと思います。また、子どもの減少に伴う子ども会の活動を心配される話、不審者情報や地域での気になる子どもの姿など様々な情報交流が行われ、地域の目が子どもや学校に向けられていることがよく伝わりました。



何度か紹介をしている東濃ジュニアリーダーの代表（かずくん）は、笠原で育った若きリーダーです。6月に開催された「県子ども会育成大会」では、こうした活動に取り組んでいる意義について熱く語ってくれました。学校が地域と手を取り合い、協働活動を進めているよさが、今後いろいろなところで広がっていくと感じます。

一人の委員が、帰り際に「なにか学校のことで手伝えることがあったらいつでも言ってよ。」と一言声をかけて帰られました。その言葉を聞いて、笠原小では、今後もより一層、地域と共に協働活動が活発に行われていくと実感しました。

※1；学校運営協議会を設置した学校

※2；地域学校協働活動：地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

土岐市立妻木小学校では、東濃地区社会教育振興協議会研修会でご講演いただいた、津島市 地域学校協働本部 統括コーディネーターの梶村明人先生を講師に迎え、CS研修会（拡大学校運営協議会）を開催しました。

今回は、拡大学校運営委員会のため、コーディネーターである委員長や顧問をはじめ、

区長会長、公民館長、青少年育成会長などの学校運営協議会委員11名他、地域団体の代表者、団体責任者、PTA本役員、教職員の総勢50名が参加しました。



1部：梶村先生による講話



【演題】 「これまでの学校とこれからのCSに求められるもの」

【講話内容の抜粋】

- ・今後「人がつながらなくても生きていける時代」となることを危惧
- ・「人づくりは、地域でしかできない」
- ・「村を捨てる学力」を「村を育てる学力」に変えていくことが大切

2部：梶校長先生からの「教育ビジョン」から熟議へ

【梶校長先生から「教育ビジョン」等の説明】

- ① 「妻木小学校の誇りや自慢」「子どものよさ」の説明
- ② 子どもに身に付けさせたい「主体性」「共生力」「挑戦」について
- ③ 地域の方に支援・協働してほしいこと など

【グループワーク】

- ・「こんな町になってほしい」「これだけは残したい、伝えたい」という思いの交流
- ・伝統芸能「流鏑馬」や「挨拶」「人づくり」「ボランティア」「家庭教育」などについて意見交流
- ・出された意見を仲間分けして、「学校として」「地域として」何ができるのか熟議
- ・ワールドカフェ方式による他の班との交流



地域と教職員が、地域の子どもの育成について、熟議する機会はなかなかありません。妻木小のように、地域と学校が手を取り合い、地域学校協働活動が充実すれば「子どもたちの社会貢献意識」「地域への愛着」「コミュニケーション力及び学力の向上」「教員の地域・社会への理解の促進」「地域教育力の向上」など、子ども、学校、地域のそれぞれに対して、様々な効果が期待できると感じました。

